



施設での導入事例：フォレスト

「“働きたい”を尊重し、育てています。
できることをじっくりと、一緒に伸ばしていきましょう」

「自信がないために、良いところや秀でた能力を 発揮できない人が多い」

東京・葛飾と聞くと、「わたくし、生まれも育ちも葛飾柴又です」の口上でおなじみの映画『男はつらいよ』や、派出所勤務の警察官の下町奮闘記を描いた長寿ギャグ漫画『こち亀』（正式名称：『こちら葛飾区亀有公園前派出所』）を思い浮かべる方も多いことでしょう。フォレストは、下町情緒漂う街並みの一角、葛飾区役所を目の前に望むビルの2階にあります。階段をのぼり、入口の扉を開けると、20人ほどのフォレストの利用者のみなさんの笑顔に迎えられました。

障害のある方たちの就労のハードルは、大きく2つあるといわれています。ひとつは仕事に就くことそのもの。もうひとつは、仕事を長期間続けること（就労継続）のむずかしさ。この2つのハードルを越えるため、障害のある方に寄り添いながらサポートするのが就労移行支援事業所(※)なのですが、フォレストの利用者のみなさんのにこやかな表情からは、その「ハードル」が連想できにくいのです。まず、そのあたりから、フォレストの高橋所長にうかがってみました。

「就労移行支援事業所の大きな役割は、文字通り障害のある方の就労サポートです。特別支援学校を卒業したばかりのフレッシュな方も対象ですし、仕事に就いたものの、さまざまな事情で離職してしまった方の再就職の支援もしています。しかし、それ以上に大切なのは、いかに長い期間、安定して仕事を続けられるかだと考えています。そのとき、まず課題となるのは、事業所を利用される方たちのメンタルの状態です。みなさん、それぞれに良いところや秀でた能力をもっているのに、自信がないために、それらが発揮できていない方がとても多いと思います」（高橋所長）

※「就労移行支援事業所」

就労移行支援事業所は、障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスのひとつである「就労移行支援」のサービスを提供します。障害のある方を対象に、仕事をするうえでの必要なスキルや能力を身につけるためのさまざまな職業訓練プログラムを用意するほか、面接対策なども指導し、就職活動全般をサポートします。また、「就労移行支援」は比較的新しいサービスです。2006年の障害者自立支援法（2012年改正、2013年障害者総合支援法に）の施行に伴い、それまでの「授産施設」「小規模作業所」（通常の就労がむずかしい障害者のための働く場）のほとんどは、就労そのものの場を提供する「就労継続支援A型（雇用契約あり）」「同B型（雇用契約なし）」、そして就労に必要なスキルや能力の向上を図るための「就労移行支援」などの施設や事業所へと順次移行してきています。

「就労移行支援事業所は、学びの場であり、人材育成の場でもあり たいと考えています」

フォレストのサービス管理責任者の伊藤さんがこう続けます。

「フォレストに来られた当初、人とうまくコミュニケーションできなかったり、何事にも消極的だったりという方が多いと感じています。でも、それは一時的な状態で、これまで何年もの生活のなかで、できなかった体験や挫折などが折り重なり、自信をなくしているからだと思います。就職するのは簡単ではないですが、利用者さんとともに職種や会社を選び、就労のためのトレーニングをきちんと積み重ねれば、実現できそうだという感



フォレスト 高橋さん（所長）



フォレスト 伊藤さん（サービス管理責任者）



フォレスト 福井さん（職業指導員）



フォレスト 佐々木さん（就労支援員）

触はあります。けれど、大切なのはそのあとで、“自分はこれでいいんだ”“この仕事で会社に認められている”という自信をもちつつ、仕事を長く続けられることだと思います」

「だからこそ、ここで提供しているさまざまなプログラムをこなすことで、就労に必要なスキルや能力を育てていくとともに、そのプロセスで“やればできる！”という感覚を身につけてほしいのです。その感覚や体験を重ねることで、自信、つまり自分を信頼する気持ちが育ってくるはずです。自信...、自己肯定感といってもよいかもかもしれませんが、自信があれば周りの人ともうまくかかわれますし、心も折れにくくなると思います。そういう人になって巣立ってほしいですね。その意味では、就職はゴールではなくスタート。フォレストも障害のある方たちの学びの場であり、さらに人材育成の場でもありたいですね」（高橋所長）

じつは、冒頭のタイトル「“働きたい”を尊重し、育てています。できることをじっくりと、一緒に伸ばしていきましょう」は、フォレストのホームページ内にある一節を拝借したものです。高橋所長はじめ、スタッフのみなさんの真摯で熱い想いが詰まっています。

あいさつが元気になるようになる。人と積極的にかかわれるようになる。利用者さんたちの大きな変化。そして、笑顔が笑顔を生む。

フォレストの就労支援プログラムは、就職に向けて少しずつステップアップできるように、さまざまなものが用意されています（※）。そしてフォレストでは、働くための基本的習慣と能力を自分のものにするためのメインプログラムとして公文式学習を取り入れ、利用者さんは月曜から金曜の毎日（午前）、算数・数学、国語、英語の教材に向かっています（算数と国語は選択制、英語は全員）。高橋所長にその経緯をうかがいました。

「公文を導入したのは2014年4月（算数と国語、英語は2016年1月導入）ですが、それ以前は清掃の仕事を請け負って支援プログラムのメインにしていました。しかし、仕事として請け負うため、ある日時までにきちんと仕上げるという制約があり、利用者さんができないところは、フォレストのスタッフが手伝うことになりました。それで、全員の方が“やればできる”という感覚や自信をもつにはむずかしい面もありました。ほかにもいろいろなプログラムを試してみてもうまいかまず試行錯誤していたころ、公文を支援プログラムのメインとして導入している千葉の就労移行支援事業所（就職するなら明朗アカデミー/成田キャンパス）を見学したのが導入のきっかけでした。基礎学力や学力がつかただけでなく、“できる！”“できた！”という自信もつく。これだ！と思いました。フォレストがやろうとしていることと同じだったのです」（高橋所長）

そして、公文式を導入して半年もしないうちに、フォレストのスタッフのみなさんが予測した以上の変化が、利用者さんたちに見られるようになったといいます。公文式学習のメインスタッフのおひとり、福井さん（職業指導員）のお話です。

「学習した教材を利用者さんが提出したり受け取る時、“失礼します”“よろしくお願ひします”などのあいさつをしますが、そのあいさつがふだんの生活のなかでも生きてくるのです。以前は、かすかな声での“おはようございます...”だった利用者さんが、大きく元気な声で“おはようございますっ！”と言うようになったり。ほとんど会話がなかった利用者さんが、何かあると声をかけてきてくれたり、質問してくれたり。やはり、利用者の方それぞれができることをくり返しながら学習し、それをほめられるので、日に日に自信が大きくなるのだと思います。その自信が、利用者さんをさらに成長させているように思えます。自分自身の変化もありました。その成長をほめたいので、利用者さんお一人おひとりをよく観られるようになりました」（福井さん）

「だからでしょうね、利用者さんに笑顔がほんとうに増えたと思います。それは、わたしたちスタッフも同じです。自信をつけて笑顔が増えた利用者さんたちを見てると、わたしたちもうれしいので、自然に笑顔になってきます。もうひとつよかったのは、利用者さんお一人おひとりの見方が変わったことです。以前は“できないところをどうするか？”とマイナス方向で考えていたのですが、いまは“できるようになるために、どう



これは何の列かという...。英語の音読確認をもらうために、利用者さんたちがならんでいるところ。ならんでいるときも、みなさん楽しそうな表情で、英語の発音練習に余念がありません。

するか?”とプラス方向で考えられるようになりましたから。たとえ結果は同じでも、できるようになったときの利用者さんとわたしたちのうれしさは大きく違いますね」
(伊藤さん)

英語学習で、コミュニケーション力がさらにアップ!?

フォレストでは、2016年1月から利用者さん全員が公文式の英語学習をしています。これは高橋所長が2015年末、公文式英語を導入している就労移行支援事業所（就職するなら明朗アカデミー/佐倉キャンパス、2015年3月から国語と英語を導入）を見学し、その楽しそうな学習の様子にとても驚き、導入を即決したため。フォレストでの英語学習の様子を、公文式学習のメインスタッフのもうおひとり、佐々木さん（就労支援員）にうかがってみました。

「2015年の12月に、利用者の方たちに“1月から公文の英語をします”とお伝えしたら、“エッ〜、英語!?”という驚き半分、うれしさ半分のような反応でした。でも、わたしたちスタッフにはちょっと不安もありました。算数の学習のときなど、ほかの利用者さんの私語が気になる方、小さな音にも過敏に反応してしまう方もいるので、自分のはよいにしても、ほかの利用者さんのE-pencil（※専用リスニング機器）の音や音読確認の声などが気になるのでは?。それも20人という利用者さんが一斉に英語の学習をして大丈夫なのかな?という心配です。しかし、スタートしてみてもビックリでした。みなさん自分の学習にほんとうに集中するので、ほかの利用者さんの声やE-pencilの音はほとんど気になっていません。それどころか、算数や国語の学習ではめったに見られないような満面の笑みで、すごく楽しそうに学習しているのです。英語をスタートしてからまだ3ヵ月目ですが、英語学習でコミュニケーションの力がどんどんついてくるのでは、と期待しています」。

最後にフォレストの利用者さんおふたりに、英語を学習しての感想や今後の抱負をうかがってみました。おひとりめは、Sさん（30歳・男性）です。

「英語は中学のころから好きでした。発音が良いと、英語の先生にほめられたことで好きになりました。算数も楽しいけど、英語のほうが好きですね。東京オリンピックが何年後かにあるので、英語で外国の人たちと少しでも話ができればいいと思います」。

もうおひとは、今年が成人式だったというMさん（20歳・女性）です。

「英語はとても楽しいです。外国人と英語で会話をするのが夢です。算数も英語もがんばって、早く仕事につきたいです。今年成人式だったんですが、着物をレンタルして着付けをしてもらいました。着付けに時間がかかりすぎて成人式には間に合わなかったけれど、家族で神社にお参りに行って、記念写真も撮って、とても良い思い出ができました。でも、けっこうお金がかかったので、わたしが払うことにしてお母さんから借りました。だから、早く仕事について、そのお給料でお母さんにお金を返したいです」。

皆さん、それぞれ夢が実現するといいですね。応援しています！

(2016年3月現在)